

2020年度 事業報告書

2020年4月1日から

2021年3月31日まで

公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	ごあいさつ	1
事業報告		
1	総 会	2
2	役員会	2
3	会 員	2
4	調査及び研究（定款第5条1号）	3
5	研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条2号）	4
6	学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号）	5
7	人材の育成（定款第5条4号）	6
8	規格の作成及び普及（定款第5条5号）	9
9	内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第5条6号）	11
10	研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号）	13
11	その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）	13
	参考：事業区分の説明	15

ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会
会長 寺師 茂樹

まず初めに、昨年度末より猛威を振り始めた新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度は実地開催の催事の多くを中止とせざるをえなくなりましたが、そういった中でも、個人会員、賛助会員の皆様には、倍旧のご支援とご協力を頂き心よりお礼申し上げます。

世界中が変革を迫られる中、本会としましても活動を止めることのないよう、催事や委員会の運営方法を実地開催からオンライン開催に切り替え、精力的に活動してまいりました。

今年度の主な活動を振り返りたいと思います。

5月の春季大会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催中止となりましたが、提出された244件の予稿をもって学術講演会の発表といたしました。横浜・名古屋の人とくるまのテクノロジー展も開催中止となりましたが、後日、出展社による技術情報ガイドブックをWebで公開し、出展社及び参加予定者へのサービス向上を図りました。10月の秋季大会はWeb会議システムを用いてオンラインで開催し、不慣れな開催形式だったため配信トラブルなどもありましたが、学術講演会の参加登録者数は3,408名で、秋季大会としては過去最多となる参加者数となりました。

学生フォーミュラ日本大会は、実地開催は中止となりましたが、オンライン企業PRイベントやEVオンラインセミナーなど、関連イベントをオンラインで開催いたしました。

各種講座もオンライン開催を推進、新技術分野のエンジニア教育プログラムとして、CASE技術基礎講座、エシカルエンジニア育成講座をオンラインで初開催いたしました。

標準化事業においても、対面会議が全面的に中止となった中、Web会議などで対応し、計画通りに標準化活動を進捗させることができました。

会員数におきましては、賛助会員数は昨年度よりも僅かに減少、個人会員数につきましては3年連続で減少傾向となりました。

昨年度設置しました総務委員会会員対策タスクフォースにおいて、より魅力的な会員サービスを提供する企画として提案しました「会員・非会員を問わず全てのステークホルダーが参加・交流できるプラットフォーム」の構築に今年度より着手いたしました。まずは、2021年4月より、会誌「自動車技術」も電子化し、本プラットフォーム上で配信、会員の皆様へいち早くお届けすることができるようになりますが、これを皮切りに更なるサービス向上につとめてまいります。

2021年度の始まりも不透明な状況ではありますが、自動車技術会としましては、オンライン化による情報発信や議論の場の提供を続け、ステークホルダーの皆様とともに、With CORONA社会に求められる新たなモビリティ、カーボンニュートラルを実現するための技術課題にもチャレンジし、発展してまいりたいと存じます。

引き続き、会員並びに関係者の皆様より、一層のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

1 総 会

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言を鑑み、感染拡大防止のため、また、ご出席者の安全を最優先とする配慮の観点から、代議員の皆様には、書面またはインターネットによって議決権を行使いただくことを推奨し、理事以外のご出席を要請しないこととして、2020年5月21日に、第10回定時総会を開催した。

坂本会長（2018-2019年度）の議長により次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

書面またはインターネットによる議決権の総数：184個

議案：

第1号議案：2019年度決算報告の件

第2号議案：2020～2021年度理事選任の件

第3号議案：2020～2021年度監事選任の件

第4号議案：名誉会員推薦の件

報告事項

(1) 2019年度事業報告の件

(2) 2020年度事業計画の件

(3) 2020年度予算の件

2 役員会

理事会4回、担当理事会4回、及び支部担当理事会2回を開催した。

3 会 員

2020年度中の個人会員の入会者数は1,874名、退会者数は4,754名で、2021年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し2,880名減（約6%減）の45,966名となった。賛助会員の入会数36社、退会数は54社で、2021年3月31日現在の会員数は前年度比18社減の677社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

	名誉会員	正会員	学生会員	合 計	賛助会員
2016年度	50	46,464	2,473	48,987	615
2017年度	52	47,150	2,214	49,416	642
2018年度	51	46,887	2,010	48,948	669
2019年度	50	46,882	1,914	48,846	695
2020年度	49	44,611	1,306	45,966	677

支部別会員数の推移（毎年度末現在）

	北海道支部	東北支部	関東支部	中部支部	関西支部	九州支部	海外	合計
2016年度	240	564	18,714	22,286	6,046	858	279	48,987
2017年度	212	575	18,680	22,497	6,247	939	266	49,416
2018年度	215	527	18,483	22,153	6,390	930	250	48,948
2019年度	212	530	18,421	22,243	6,311	882	247	48,846
2020年度	190	400	17,408	21,037	5,897	832	202	45,966

4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

自動車及び自動車関連技術の調査・研究・交流活動を目的とする48部門委員会の活動を推進した。

共同研究センターでは、産学連携事業、他学会協会との連携事項、受託研究事業などを目的とする5委員会が活動を推進した。（新型コロナウイルス感染防止のため、委員会活動は、原則、オンラインによるものとした。）

部門委員会と共同研究センター傘下の各委員会の企画により、2020年春季大会においては82件のオーガナイズドセッション（OS）及び18件のフォーラムを予定、名古屋展示会においては、3件のフォーラムが予定されていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により開催中止となった。なお、フォーラムについては、7月に7プログラムをオンラインにて開催し、新たな方法による技術交流の促進に貢献した。

国際会議関係では、「AVEC2020」が開催中止かつ2年後に開催延期、「SETC2020」は開催中止に、また、「第31回内燃機関シンポジウム」はオンラインにて開催した。

技術会議においては、新たに各国際会議の常設委員会設置を制度化した。

技術会議

技術会議	技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。3回オンライン開催
運営検討委員会	技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を行った。3回オンライン開催
イノベーション創出委員会	今年度開催無し
合同会議	2020年8月20日オンライン開催、161名出席、基調講演1件、事務局から事業報告と2021年度事業計画策定を依頼、技術部門貢献賞および学術講演会運営功績感謝状の表彰もオンラインにて開催
分野連絡会	今年度開催無し
部門委員会	48部門委員会で活動、委員会延べ開催数211回、話題提供数355件（新型コロナウイルスの影響により、原則、委員会オンライン開催）
学術講演会運営委員会	春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、等を行った
国際会議	以下の国際会議を準備、開催 <ul style="list-style-type: none"> ・AVEC2020（2020/9/14～18、神奈川工科大学）中止、延期 ・SETC2020（2020/11/10～12、ミネアポリス/米国）中止 ・第31回内燃機関シンポジウム（2020/11/16～18、東京工業大学）オンライン開催
OS・フォーラム	OS：2020年春季大会にて82件を企画したが開催中止 フォーラム：2020年春季大会にて17件、名古屋展示会にて2件を予定していたが、開催中止、7月30～31日、オンラインにて6件を開催

シンポジウム・講習会	シンポジウム：4件オンライン開催（新型コロナウイルスの影響により4件中止） 講習会：1件計画 中止 シンポジウム総動員数540名
公開委員会	9件を企画・実施（新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催）
研究調査事業	助成型1委員会が1テーマで実施。総額 880千円 拠出型1委員会が2テーマで実施。総額 1,500千円
受託・請負事業	大気環境技術・評価部門委員会 受託先：日本自動車工業会
その他活動	振動騒音部門委員会 第9回技術者育成プログラム（主に学生対象）
	流体技術部門委員会 第4回技術者育成プログラム（主に学生対象）
	デザイン部門委員会 第8回二輪デザイン公開講座 中止
	材料部門委員会 第9回中高生対象カーデザインコンテスト 日本鉄鋼協会と「自動車用材料共同研究調査会」で連携
	構造形成技術部門委員会 新構造材料技術研究組合（ISMA）と「マルチマテリアル構造設計技術調査委員会」で連携
	自動車制御モデル部門委員会 計測自動制御学会と連携

共同研究センター

運営委員会	共同研究センターの運営他について議論した、2回オンライン開催
委員会活動	5委員会にて調査研究活動を推進、委員会延べ開催数16回、話題提供者数29件。（新型コロナウイルスの影響により、原則、委員会オンライン開催）
OS・フォーラム	OS：2020年春季大会にて1件企画したが、開催中止 フォーラム：2020年春季大会にて1件、名古屋展示会にて1件を予定していたが、開催中止、7月30～31日、オンラインにて1件を開催
受託・請負事業	1委員会が1テーマで実施。予算：6,160千円

OS: Organized Session

AVEC: International Symposium on Advanced Vehicle Control

SETC: Small Powertrain and Energy Systems Technology Conference

5 研究発表会及び学術講演会等の開催

（定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により5月の春季大会は中止となり、提出された244件の予稿を以って学術講演会への発表とした。同じくフォーラムは中止となったが7月末に7件をオンライン開催した。10月の秋季大会は北九州市での実地開催を中止してオンライン開催へ変更、学術講演会には3,408名の参加があり、前回の北九州大会（2015年／1,921名）を大幅に上回る結果となった。自動車技術展：人とくるまのテクノロジー展は、5月に横浜、7月に名古屋で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。

春季大会 <2020年5月20日（水）～22日（金） パシフィコ横浜（横浜市）>（中止）

学術講演会 244編

フォーラム <2020年7月30日（木）～31日（金） オンライン>

フォーラム 7件、聴講登録者1,855名、延べ聴講者2,376名

秋季大会 <2020年10月21日（水）～23日（金） オンライン>

学術講演会 75セッション、講演数341編（内、英語講演29編）、参加登録者数3,408名

特別座談会、参加登録者数2,357名

Technical Review、（特別座談会 2,267名、Technical Review 1,031名、学生ポスターセッション 557名）

自動車技術展	<2020年5月20日(水)～22日(金) パシフィコ横浜(横浜市)>(中止)
	<2020年7月8日(水)～10日(金) ポートメッセなごや(名古屋市)>(中止)
人とくるまのテクノロジー展 2020 横浜	新型コロナウイルスの影響により中止
人とくるまのテクノロジー展 2020名古屋	新型コロナウイルスの影響により中止
シンポジウム	
委員会企画 シンポジウム・講習会	オンラインでシンポジウム計4回を開催、計540名参加(当初計画されていた9回のうち5回は中止)

6 学術誌及び学術図書の刊行(定款第5条3号、公益目的事業1・2・3)

本年度は、「2050年チャレンジ」を基に制定した編集会議ロードマップの各事業を、昨年度から引き続き実行した。また出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった12名の方に出版・編集功績感謝状を贈呈した。

資料収集・調査研究に関する学術誌の発行(公1)

会誌「自動車技術」	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車技術者、研究者などにとって有益なテーマを毎月特集テーマとして取り上げた記事を掲載 ・幅広い読者層を焦点にあてて、「記事の多様化」や「鮮度の高い情報発信」を目的に、2020年4月号より技術解説記事(特集記事)と、速報性の高い記事(ホットトピックス記事)の2本柱にて会誌を構成 ・魅力ある会誌作りに向けた編集体制の強化 ・年鑑号英語版のウェブサイト掲載を継続 ・年間発行部数約60万部 *2020年4月より読者アンケートを実施 *2021年4月より電子化する
自動車技術—文献抄録集—	毎月発行し、3,642件の文献を掲載
JSAE エンジンレビュー	電子版不定期刊行物として発行 2020年度は、Vol.10 No.3～Vol.11 No.2として、計7回発行した 閲覧ページのHTML化を継続
日本の自動車規格(2019年日本語版)	JIS規格387件、JASO規格365件、TP・TR69件、TRIAS242件を収録
JASO規格(英語版)	英訳されたJASO規格298件を収録
高翔	関東支部企画・編集により2回発行
宙舞	中部支部企画・編集により2回発行
関西支部ニュース	関西支部企画・編集により2回発行
テストングツール最前線 2020	自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事広告誌として発行(60,000部) 会誌に同梱し会員に配布
次世代自動車技術最前線 2020	次世代自動車に関係する各社の技術や取り組みをまとめた記事広告誌として発行(60,000部) 会誌に同梱し会員に配布

研究発表に関する学術誌の発行(公2)

自動車技術会論文集	年6回発行し、195編をJ-STAGEにて公開した
-----------	---------------------------

International Journal of Automotive Engineering	英文の電子ジャーナルとして年4巻発行、27編をJ-STAGEにて公開 IJAE専用ウェブサイトを作成し公開
学術講演会予稿集	2020年春季大会分 244件をDVDで発行 秋季大会分 341件を電子媒体にて発行
Summarized Paper	2020年春季・秋季大会での発行分をWEB上で公開
フォーラム資料	4イベントを電子媒体にて発行、合計19文献を発行
人材育成に関する学術図書の発行（公3）	
シンポジウム・講習会	4イベント分を電子媒体にて発行
テキスト	合計36文献を発行
九州支部	学自研機関誌（Eternal Car Life 23号）発行
広報関連他の発行	
プレスリリース	16件配信
ニュースレターJSAE Eye	3回発行（5月、8月、12月）
JSAEメールマガジン	イベント、新着文献等の情報を配信（登録者：約3万6千名）
北海道支部	支部日より1回発行
関東支部	支部報電子化に伴うお知らせ（2021年1月発行）、メルマガ11件配信。
中部支部	支部ニュース6回発行
関西支部	行事案内7回発行

7 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部実地催事の中止を余儀なくされたが、一方でオンライン対応を推進した。第2回自動運転AIチャレンジは予選、決勝ともオンライン競技を実施した。第18回学生フォーミュラ日本大会2020は中止となったが、オンライン企業PRイベントやEVオンラインセミナーなど複数のオンラインイベントを実施した。自動車開発・製作セミナーは、座学講座編の電子配信版の更新と追加シリーズを2021年1月よりオンラインにて順次公開し、別途EVに関するオンラインセミナーも実施。また、学生の新たな発表機会として学生ポスターセッションをオンラインで初開催した。キッズエンジニア2020や支部主催の小学生向けものづくりプログラムは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とした。講座のオンライン化を推進、新技術分野のエンジニア育成講座としてCASE技術基礎講座、エシカル・エンジニア育成講座を初開催、自動車サイバーセキュリティ講座を引き続き開催した。自動車工学基礎講座はモーターサイクル工学講座を含め計3回開催した。自動車エンジニアレベル認定では、17名のJSAEフェローエンジニア、23名のJSAEプロフェッショナルエンジニア、32名のJSAEシニアエンジニアおよび83名のJSAEエンジニアを認定した。

自動車工学講座

基礎講座	第66回：参加者191名、2020年6月28日～7月2日 オンライン開催 第67回（本田技術研究所）：参加者646名、2021年2月2日～4日 オンライン開催 第68回（モーターサイクル工学）：参加者341名、2021年2月24日～25日 オンライン開催 <浜松地域イノベーション推進機構 次世代自動車センター共催> 第3回自動車工学基礎講座：参加者31名、2020年12月17日 オンライン開催
JSAE ナイトセミナー	2020年度は10回 オンライン開催
エシカル・エンジニア育成講座	第1回：2020年7月15日 オンライン開催 第2回：2020年7月22日 オンライン開催 第3回：2020年7月30日 オンライン開催 第4回：2020年12月18日 オンライン開催
CASE 技術基礎講座	第1回：参加者93名、2021年3月25日～26日 オンライン開催
自動車サイバーセキュリティ講座	第4回：参加者81名、2020年9月2日～3日 オンライン開催

自動車開発・製作セミナー：実地セミナーはすべて中止

座学講座編	2015年に公開した自動車開発・製作ガイドの電子配信版セミナーを刷新し、追加講義含めてオンラインでの公開（YouTube）を実施。 （2021年1月より、学生フォーミュラ大会公式サイトにて公開）
EV 回路製作実習編	2021年3月3日（水）～5日（金） 学生85名参加（協力 日産自動車）

支部の講演会・見学会等

北海道支部	見学会1回（新型コロナウイルスの影響により中止）、オンライン講演会1回（Zoom会議システムにて開催）、市民講座4回（内2回は新型コロナウイルスの影響により中止）
東北支部	見学会2回、講演会2回は新型コロナウイルスの影響により中止 市民講座10回（内2回は開催、8回は新型コロナウイルスの影響により中止）
関東支部	講演会・講習会（オンライン開催）、見学会を合計4回開催、特別見学会（オンライン開催）を1回開催 今年で11回目となる学生の国際交流活動は、新型コロナウイルスの影響によりタイおよび台湾 SAE との相互派遣は中止。国際交流イベントも中止。
中部支部	講演会6回（新型コロナウイルスの影響により内4回中止）、研究発表会1回（新型コロナウイルスの影響により中止）、見学会14回（新型コロナウイルスの影響により中止）、技術講習会6回（新型コロナウイルスの影響により内4回中止）、技術交流会2回（新型コロナウイルスの影響により内1回中止）、技術者懇談会3回（新型コロナウイルスの影響により中止）、体験型講習会1回（新型コロナウイルスの影響により中止）を開催
関西支部	見学会1回、講演会2回、技術者懇談会は中止、技術者交流会1回を開催（Webの講演会、交流会、見学会を含む）
九州支部	講演会3回（内3回は新型コロナウイルスの影響により中止）、見学会1回、（新型コロナウイルスの影響により中止）関西支部との合同例会（見学会、講演会）1回（コロナ対応により中止）、市民講座3回、（新型コロナウイルスの影響により中止）技術者交流会1回（新型コロナウイルスの影響により中止）

技術者・研究者の認定制度

第15回自動車エンジニアレベル認定	JSAE フェローエンジニア 17名 JSAE プロフェッショナルエンジニア 23名
-------------------	---

JSAE シニアエンジニア 32 名
JSAE エンジニア 83 名を認定

第 18 回 学生フォーミュラ日本大会 2020—ものづくり・デザインコンペティション—

2020 年 9 月 8 日 (火) ～12 日 (土) にエコパ (静岡県掛川市/袋井市) で開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響により、大会中止となった (4 月 7 日に中止を公表)。2020 年シーズンはほぼ全ての海外大会も中止措置・オンライン企画のみとなった。

日本大会では、EV 関連のオンラインセミナーを開催すると共に、参加チームとスポンサー対象のオンライン企画を実施した。2020 年大会特別スポンサーを募集 (計 87 社)、大会中止に関わる応援メッセージの掲載、チーム向けチャリティグッズの製作や以下のオンライン交流企画等を実施した。

【EV クラス オンラインセミナー】

- ・2020 年 5 月 26 日 (火) 学生フォーミュラ EV イントロダクションセミナー：学生 96 名参加
- ・2020 年 6 月 22 日 (月) ～24 (水) 学生フォーミュラ EV 回路製作講座：学生 66 名参加
- ・2020 年 7 月 6 日 (月) ～7 日 (火) 学生フォーミュラ EV 低圧電気安全講座：学生 90 名参加

【学生と企業の交流企画】

- ・2020 年 7 月 22 日 (水)、29 日 (水) オンライン企業 PR イベント：企業 47 社 98 名、学生 182 名参加
- ・2020 年 10 月 9 日 (金)、15 日 (木) 大会スポンサー説明会：企業 66 社参加

支部合同試走会	8 月 3 日 (月)～5 日 (水) にエコパにて予定していた関東・中部・関西合同試走会は、新型コロナウイルスの影響により中止
北海道支部	車検講習会 1 回 (新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)、学生フォーミュラ合同試走会 2 回 (新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)、学生フォーミュラ活動報告会 1 回 (オンライン開催)
東北支部	試走会 4 回、模擬車検会 2 回、技術講習会 1 回は、全て新型コロナウイルス感染拡大の影響により全行事を中止
関東支部	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、試走会は、全て中止。12 月にダンパ講習会、3 月にダンパー計測相談会を実施。ダンパー計測相談会は中止。
中部支部	予定していた走行技術トレーニング 1 回～4 回 (小笠山総合運動公園) は、新型コロナウイルスの影響により中止。
関西支部	関西支部独自の試走会は中止、講習会・勉強会を 1 回開催
九州支部	講演会 3 回 (内 3 回はコロナ対応により中止)、見学会 1 回、(新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止) 関西支部との合同例会 (見学会、講演会) 1 回 (新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)、市民講座 3 回、(新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止) 技術者交流会 1 回 (新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)

自動運転 AI チャレンジ

第 2 回競技は 2020 年 3 月 2 日～4 月 30 日開催のオンライン予選 (参加 34 チーム 70 名) の上位チームと、連携競技である経済産業省主催の「第 2 回 AI エッジコンテスト」上位者によるオンライン決勝競技を 2020 年 9 月 23 日～11 月 6 日まで開催 (6 月 14 日に東京大学生産技術研究所附属千葉実験所で開催予定だった実地決勝競技は中止)。オンライン表彰式を 12 月 12 日開催、表彰式、シミュレーション走行映像を公開

キッズエンジニア 2020

2020 年 7 月 24 日 (金)、25 日 (土) にポートメッセなごやでの開催予定だったが新型コロナウイルスの影響により中止、自宅学習用のコンテンツを発信した

支部の小学生プログラム

北海道支部	市民講座 3 キッズエンジニア in トヨタ自動車北海道 2020 市民講座 4 くるま未来体験教室 (市民講座 1.2 は新型コロナウイルスの影響により中止)
-------	--

東北支部	市民講座 10 は、新型コロナウイルスの影響により中止 キッズエンジニア in 東北 2020 仙台および福島は、共に新型コロナウイルスの影響により中止
関東支部	小学生くるま未来体験教室 1 回開催（北海道支部主体で開催）
中部支部	キッズ・モノづくりワンダーランド開催 1 回（三重県松阪市） 科学館主催行事に教材提供で貢献 1 回（石川県小松市） その他に中部支部各県で予定した 9 回は新型コロナウイルスの影響で中止
関西支部	キッズエンジニアを 2 回開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止 3 月に「オンライン工場見学会」を開催
九州支部	試走会 5 回（5 月、6 月、8 月、11 月、1 月）、基礎講座 1 回（6 月）、車検講習会 1 回（7 月）、安全運転講習会 1 回（8 月）、溶接講習会（9 月）、勉強会 1 回（5 月）を開催、第 18 回全日本 学生フォーミュラ大会に 5 校 5 チームが参加 新型コロナウイルスの影響により、全行事開催を中止、学生委員会（10 月）オンライン開催（新型コロナウイルスの影響により中止）WEB ミーティング（3 月）オンライン開催

次世代カーデザイナー人材育成プログラム「中高生諸君！カーデザインに挑戦！」

第 9 回カーデザイン コンテスト	応募 312 作品、6 名に各賞を授与、佳作 20 件
----------------------	-----------------------------

学生活動企画委員会の活動

学生ポスターセッション	学生の発表機会として秋季大会期間中に学生ポスターセッションをオンラインにて初開催し、20 名が発表した（5 月春季大会中止に伴う延期開催）。学生とスポンサーの交流会も実施した（スポンサー 11 社）。
-------------	--

学生安全技術デザインコンペティション

2020 年 7 月の国際大会（横浜）の開催延期発表に伴い、活動を順延

学生自動車研究会（学自研）の活動

北海道支部	学自研参与会議 3 回（オンライン開催 内 2 回）、若手エンジニアとの交流会&ラリー北海道出場車両見学会 1 回
東北支部	支部学自研大会 1 回、運営委員会 3 回、学自研参与会 2 回、講演会 1 回、見学会 1 回、第 39 回タイヤ研修会、第 30 回自動車技術独創アイデアコンテスト、第 35 自動車整備コンテスト、第 31 回手作り自動車省燃費競技大会は、新型コロナウイルスの影響により全行事を中止
関東支部	学自研大会 1 回、参与会 1 回は、メール会議実施。支部学生委員会 12 回開催。見学会、講演会は、全て中止。 学術研究講演会は、新型コロナウイルスの影響により Web 開催。
中部支部	参与会 1 回、学生委員会 4 回、ものづくりセミナー 1 回（新型コロナウイルスの影響により中止）、人とくるまのテクノロジー展 2020 名古屋（フォーミュラカー展示・プレゼンテーション）1 回（新型コロナウイルスの影響により中止）、中部支部交流会 1 回、新入生交流会 1 回、動的交流会 1 回、雪上ドライビング講習会 1 回（新型コロナウイルスの影響により中止）、EV・ICV 比較走行会 1 回（新型コロナウイルスの影響により中止）、走行指導講習会 1 回開催
関西支部	参与会 1 回、運営委員会 6 回、講演会、見学会は中止、卒業研究発表会を各 1 回開催、中四国交歓会と試乗会は新型コロナウイルスの影響で中止、小学生科学教室は中止、学生フォーミュラ運営委員会 1 回開催
九州支部	学自研総会 1 回、研究発表会 1 回、講演会 2 回、安全運転講習会 1 回、懇親会 1 回を開催、新型コロナウイルスの影響により全行事を中止、学自研機関誌 1 回発行

8 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

規格会議では、国内標準化審議団体として、自動車分野（自動車標準化委員会、JIS/JASO 規格審議委員会）および ITS 分野（ITS 標準化委員会）における標準化活動を推進した。2020年度は、新型コロナウイルスの影響により対面会議が全面的に中止となった中、Web 会議などで対応し、計画通り進捗させることができた。

自動車標準化委員会では、ISO/TC22傘下 SC/WG 会議に専門家が参加し、4件の日本発 NP 提案を含め、積極的な活動を行った。海外の標準化団体との連携では、米国 SAE との MOU に基づき、On-Board Diagnostics : OBD の規格審議に参加した。また「自動車分野の標準化戦略5カ年計画」を策定し、迅速かつ柔軟に対応するために毎年更新することとした。さらに、最新の標準化活動の広報資料として、新たに冊子「自動車の標準化2020」の発行を開始した。

JIS/JASO 規格審議委員会では、制定案4件、改正案14件、テクニカルペーパー3件を審議した。

ITS 標準化委員会では、ISO/TC204傘下WG会議やTC204レビューアドホックグループ等に専門家が参加し、5件の日本発 PWI 提案を含め、積極的な活動を行った。また「ITS 分野の国際標準化戦略 5ヶ年計画（2021年）」を策定した。さらに、最新の標準化活動の広報資料として、冊子「ITS の国際標準化2020」「ITS Standardization Activities of ISO/TC204 2020」を発行した。

自動運転の標準化活動では、自動運転の包括的な安全設計理念に関わる技術仕様書の国際標準化に対応するため、電子・電装部会傘下に自動運転安全設計手法分科会を設置した。また、自動運転に係る海外標準動向調査を実施し、欧州の CEN/CENELEC、中国の GB/T、米国の SAE などを調査し整理した。

国内における他団体等との連携では、自工会リエゾン強化に加え、経済産業省と定期的な情報交換、日本自動車研究所、自動車基準認証国際化研究センター（JASIC）等関連団体との連携活動を推進した。

経済産業省 産業標準化事業表彰において、これまでの標準化活動の功績が認められ、経済産業大臣表彰 1名、産業技術環境局長表彰 3名が受賞した。

自動車標準化委員会、JIS/JASO 規格審議委員会（自動車分野）

ISO	・ TC22/SC/WG 会議
	会議出席： 202会議594名（オンライン開催）
	・ 4 件の新規作業項目（NP）制定提案
	-自動車－ドライバモニタリングシステム
	-自動車－室内材料のフォギング試験方法
	-自動車－100Gbps 通信光ハーネスの一般要件及び試験方法
	-自動車－救急自動通報システム(D-call Net)
	・ 68 件の国際規格案（DIS）回答
	・ 2 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行
	- ISO 19363：電気自動車－磁界非接触電力伝送－安全及び相互運用性の要求事項
- ISO 17479 Amd 1：二輪自動車－点検整備時の排出ガス試験方法 追補 1	
・ 自動運転安全設計手法分科会を設置。	
・ 第 15 回 ISO 研修会 基礎編（8月6日） 参加者 168 名 内容：ISO の基礎知識	
・ 第 16 回 ISO 研修会 実践編（12月15日） 参加者 16 名 内容：ISO エキスパート 2 名による講演、グループディスカッション	
JIS	・ 制定原案1件、改正原案6件

	<ul style="list-style-type: none"> ・ JIS、JASO 原案作成講習会(7月17日) 参加者7名(7委員会)
JASO	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制定3件、改正8件、小改正3件、廃止15件、テクニカルペーパー制定3件、廃止8件
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冊子「自動車の国際標準化2020」を発行 ・ 5か年計画制定・メンテナンスWGを設置し自動車分野の標準化戦略5か年計画を策定 ・ 自動運転標準化検討会におけるTC22、TC204、自工会、JASICの連携促進 ・ 12部会、64分科会を設置、構成委員数2,248名、開催数398回
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業(自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築) 委託元:野村総合研究所(自動運転に係る海外動向デスクトップ調査(Phase1)を含む) ・ 戦略的国際標準化加速事業(D-Call Net 死亡重傷確率推定アルゴリズムに関する国際標準化) 委託元:三菱総合研究所 ・ 戦略的国際標準化加速事業(自動車内装部材のフォギングに関する国際標準化) 委託元:三菱総合研究所 ・ 2020年度標準化事業 委託元:日本自動車工業会
表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準化活動功労者感謝状贈呈 3名 ・ 産業標準化事業表彰:経済産業大臣表彰 1名、産業技術環境局長表彰 2名

ITS 標準化委員会 (高度道路交通システム分野)

	<ul style="list-style-type: none"> ・ TC204 及び関連国際会議
	<p>会議出席:41 会議 173 名(オンライン開催)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 件の予備業務項目(PWI)提案
	<ul style="list-style-type: none"> — 低速自動運転システムのサービスアーキテクチャー第1部:オーバーオールアーキテクチャー(TS) — 低速自動運転システムのサービスアーキテクチャー第2部:ギャップアナリシス(TR) — 低速自動運転システムのサービスアーキテクチャー第3部:システムコンポーネンツ — 自動バレー駐車システム—第2部:セキュア通信 — スマートシティのITS モビリティサービスアプリケーションのデジタルインフラサービスアーキテクチャー
ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・ 18 件の国際規格案(DIS) 回答 ・ 4 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行 — ISO 20524-1:地理データファイル 第1部 複数の情報源の間で共有される地図データ — ISO 20524-2:地理データファイル 第2部 自動運転システム、協調ITS、マルチモーダルトランスポートで使用される地図データ — ISO 17572-4:位置参照手法 第4部 高精度相対位置参照 — ISO 21202:部分的自動車線変更システム(PALS)–機能/運用要件と試験方法
委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冊子「ITSの国際標準化2020」を発行 ・ ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画(2021)を策定 ・ ITS標準化委員会、技術委員会、ITS国際標準化戦略タスクフォース、WG14分科会関連、その他の国内会議を61回開催、構成委員数288名
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギー等に関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野))(スマートモビリティシステムに関する国際標準化及び普及基盤構築) 委託元:野村総合研究所
表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準化活動功労者感謝状贈呈 5名 ・ 産業標準化事業表彰:産業技術環境局長表彰 1名

JIS: Japanese Industrial Standards

JASO: Japanese Automobile Standards Organization

TC: Technical Committee

SC: Sub-Committee

WG: Working Group

DIS: Draft International Standard

9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第5条6号、公益目的事業1・2・3)

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外ではFISITAやAPACの活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

日本学術会議	協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2020(2020年7月)を共催
経済産業省	省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業(省エネルギー等国際標準開発(国際標準分野)):①スマートモビリティシステムに関する国際標準化・普及基盤構築 ②自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築 戦略的国際標準化加速事業:①D-Call Net死亡重傷確率推定アルゴリズムに関する国際標準化 ②自動車内装部材のフォギングに関する国際標準化 第2回自動運転AIチャレンジの開催で連携(後援) 第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査に協力
国土交通省	第27回ESV国際会議(横浜:2021年7月)が延期となり、第9回学生安全技術デザインコンペティションに向けての活動を順延 自動運転標準化研究所(事務局:自動車基準認証国際化研究センター)における国際標準化活動と国際標準化活動の連携 デザイン部門委員会が新たな図柄入りナンバープレートのあり方に関する検討会に協力
新エネルギー・産業技術総合開発機構	運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査のWGに持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し活動を推進
情報通信技術委員会(ITC)	通信セキュリティの標準化で連携
日本工学会	理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を図った
日本機械学会	日本機械学会が幹事となり、第31回内燃機関シンポジウム(オンライン:2020年11月)を共催
日本規格協会	自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼 J I S、JASO 原案作成講習会への講師を依頼
日本自動車工業会	海外におけるPM研究動向の最新研究調査(受託事業)を実施 安全・環境標準化部会・自動運転部会との連携活動 第2回自動運転AIチャレンジの開催で連携(後援)
日本金属学会	材料部門委員会との活動で連携
日本鉄鋼協会	材料部門委員会と共同設置している自動車用材料共同調査研究会の活動を推進
計測自動制御学会	自動車制御とモデル部門委員会の活動で連携
新構造材料技術研究組合	構造形成技術部門委員会の活動で連携
FISITA	FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長・理事の要職に本会役員などが就き、FISITA 組織・活動に参画。9月開催予定のFISITA2020プラハ大会は2021年へ延期
APAC	2021年3月開催予定のAPAC-21メルボルン大会は2022年以降へ延期
JASPR	ソフトウェア関連の標準化で連携
SAE International	
国際会議	国際会議共催の協力覚書のもと協力していたSETC2020(ミネアポリス/SAE 主担当:2020年11月)は中止。 P, F&L、SETCの専門国際会議運営委員会を設立し協力
英国機械技術者協会(I Mech E)	MOUに基づき友好的協力関係構築の活動を継続

中国自動車工程学会 (China SAE) 国際会議等で連携
韓国自動車工学会 (Korean SAE)

アジアなど海外に係わる活動

英文電子ジャーナル 国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル
「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信

ESV: International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

P,F&L: Powertrains, Fuels and Lubricants Meeting

SETC: Small Powertrains and Energy Systems Technology Conference

10 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第5条7号、公益目的事業3)

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。

技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

第70回自動車技術会賞	学術貢献賞1件、技術貢献賞1件、浅原賞学術奨励賞4件、浅原賞技術功労賞2件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与
技術教育賞	1件に授与
技術部門貢献賞	54件に授与
自動車技術会フェロー	28名に称号を授与
標準化活動功労感謝状	標準化活動に顕著な貢献があった3名に感謝状を贈呈
ITS 標準化活動功労感謝状	ITS 標準化活動に顕著な貢献があった5名に感謝状を贈呈
出版・編集功績感謝状	編集委員会委員としての活動に多大な功績があった方、本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった方に感謝状を贈呈 編集功績感謝状5名、出版功績感謝状7名
学術講演会運営功績感謝状	学術講演会の運営に顕著な貢献があった1名に感謝状を贈呈

学生対象の業績表彰

大学院研究奨励賞	134名の大学院生に授与
学自研功労賞	8名の学生に授与
学生ポスターセッション賞	2名に授与

11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）

公益社団法人対応業務

内閣府への事業報告 定時総会終了後、事業報告・決算書の提出を内閣府に対して行った。
・決算書の提出 (電子申請)

寄附金 11名の方から総額53,000円の寄附金をいただいた。

代議員会・委員会・だいじん会

代議員会	第1回代議員会（2021年1月29日）は、新型コロナウイルスの影響により中止 ・2020年秋季大会 各催事の実施方法について確認、承認 ・2020年秋季大会において特別座談会を企画 ・ブランディングWG進捗状況、戦略企画チームによる中長期事業戦略策定
運営企画会議	進捗状況について報告を受け、確認 ・2021年春季大会 各催事の実施方法について確認、承認 ・2021年春季大会 Keynote Address の企画を検討 ・2021年秋季大会 各催事の実施方法について確認、承認
総務委員会	第3回女性技術者ネットワーキングカフェ（2020年5月22日）は、新型コロナウイルスの影響により、中止 ・プレスリリースを16件配信
広報委員会	・ニューズレターJSAE Eye を発行（5月、8月、12月の年3回発行） ・新しい広報ツールとして、学生フォーミュラシミュレータを開発
だいじん会	第57回だいじん会（2020年11月20日）は、新型コロナウイルスの影響により中止

規則制定・改正

制定	第2回理事会決議：競争法に関わるコンプライアンス規則
改正	第2回理事会決議：個人情報保護規則
	第3回理事会決議：技術会議組織規則
	第3回理事会決議：著作権規則
	第4回理事会決議：就業規則、給与規則、育児・介護休業に関する規則

会員増強

関東支部	支部活動をPRするためにHP上にイベント実施結果を掲載。 学生を惹きつける活動の一環として学自研活動PRポスターを作成し関東圏の大学へ配付した。また、関東圏の大学へ高翔74号・75号を配付した。
中部支部	イベント企画WGでは、21年度人とくるまのテクノロジー展名古屋へ、自動運転をテーマに中部地区企業の技術展示を企画し、出展を進めている。 情報発信WGでは、支部事業の中で紹介する動画、入会勧誘ポスター、非会員企業への入会勧誘メールなどを準備し、今後の活動の中で活用する。 その他、多くの事業が中止される中、会員サービスのため、特別オンライン講演会を無料で開催
関西支部	2021年度までの会員目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会、担当理事を介して各団体へ協力を要請した。コロナ禍での会員増強に向け、バーチャル見学会やオンライン講演会等、新しいスタイルの行事を実施中

ウェブサイトを活用した会員サービス

新規システム構築	文献・情報検索システム、承認システム、クレジットカード決済ページ
システム・データ更新	請求書発行システム、書籍販売システム、学生フォーミュラ支援システム、会誌編集支援システム、予想決算・予算システム、ScholarOne Manuscripts、アンケートシステム（クエスタント）、本部ウェブサイト、支部ウェブサイト、会員マイページ、JSAEメルマガ、JASO Standards (English ver.) Viewer、書誌情報の電子化、オンデマンドライブラリー、セキュリティソフトの入替・新規導入、テレワーク対応、本部のインターネット回線

支部総会・役員会

北海道支部	支部総会 1 回、支部理事会2回、臨時支部理事会1回開催
東北支部	支部総会1回、支部理事会3回を書面審議で開催 学自研参与会2回は新型コロナウイルスの影響により中止
関東支部	支部総会1回（書面審議）、理事会3回（Web 会議、内、顧問同席2回）、顧問会1回（書面審議）、事業担当理事会28回開催（書面審議、ハイブリッド、Web 開催）。
中部支部	支部総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会5回、さんぼう会2回、顧問会1回、各事業別企画委員会141回開催
関西支部	支部総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回
九州支部	支部総会1回（書面審議）、理事会2回（内1回は書面審議、1回はオンライン開催）、常任理事会4回（内1回は書面審議、3回はオンライン開催）、主催委員会1回（オンライン開催）

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・調査及び研究（定款 5-1）
- ・規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl。等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・人材の育成（定款 5-4）
- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及

び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業